

2017年度 国際漁業学会大会案内

(教室や時間帯に多少変更のある可能性があります。大会直前に JIFRS ホームページにてご確認ください)

日 時：2017年8月5日(土) 13:30~17:30 (終了後懇親会あり)

8月6日(日) 9:20~17:30

会場：東京海洋大学品川キャンパス (〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7)

参加費：大会 一般会員 2,000 円、一般非会員 3,000 円、学生無料

懇親会 一般 5,000 円、学生 3,000 円

※懇親会へ参加される方は、7月15日までに国際漁業学会事務局 (jifrs.kindai@gmail.com) までお申し込み下さい。

※個別報告は、1 報告あたり 25 分 (質疑含む) の予定です。個別報告を希望される会員は、報告者の氏名、所属、および報告タイトルを添えて、6月30日までに国際漁業学会事務局 (jifrs.kindai@gmail.com) までお申し込みください。また、7月15日までに報告要旨 (40 字×25 行以内) を、8月3日までに報告資料 (当日までに改変可、事前に座長に渡します) を、それぞれメールで事務局まで提出してください。

※報告要旨集等は配布しませんので、要旨等は、各自で事前にホームページ (<http://jifrs.info>) からダウンロードをお願いします。(7月20日頃に掲載します)

■大会スケジュール

8月5日(土)

(10:30-11:30 編集委員会)	8号館 208 会議室
(11:30-12:50 理事会 ※各自で昼食をご用意下さい)	8号館 208 会議室
13:30-17:30 シンポジウム	白鷹館 2F 多目的教室
終了後 懇親会	大学会館 1階 食堂・生協食堂

8月6日(日)

9:20-12:00 個別報告	8号館 203 教室
12:00-13:20 お昼休み	
13:20-14:20 総会	8号館 203 教室
14:25-17:30 個別報告	8号館 203 教室

■シンポジウムプログラム

「国際漁業資源管理における管理理論の展開と実践 ～マグロ、そしてサンマ、サバへ～」

【趣旨】

漁業資源管理の基本は MSY の達成であるが、資源量推定における不確実性、資源動態の推定における各種パラメーターの不確実性、環境変動などに伴う資源動態の変動に加えて、漁獲対象種と海洋生態系の関係を考慮した生態系アプローチの適用の必要性が認識されており、管理理論としてのシンプルな MSY 理論には限界があることが指摘されている。また、TAC の設定などを通じたその実施においても、漁獲枠順守、監視取締、オリンピック方式の限界と個別割当方式の導入など、様々な手法が検討されて

きている。

このような状況の下、近年注目を集めている資源管理理論としては、いわゆるモデル・ベースの手法としての MP(Management Procedures)、そしてその評価法である MSE(Management Strategy Evaluation)と言った、データやモデルなど様々な不確実性を前提とし、限定的な情報からあらかじめ設定されたルールに基づき漁獲可能量などが決定される方式がある。また、1995年国連公海漁業協定により規定された、予防的アプローチに基づく目標基準値(Target Reference Point)や限界基準値(Limit Reference Point)などの管理基準値を設定し、様々なレベルの生物資源量(B)や漁獲死亡率(F)を設定する方式も導入され、さらに、これらの組み合わせも実施されている。

モデル・ベースの資源管理方式の先駆は国際捕鯨委員会(IWC)における改訂管理方式(RMP)であり、近年ではマグロ類に関する地域漁業管理機関が多様な管理方式の導入を図り、例えばミナミマグロ保存委員会(CCSBT)においてはMPが導入されている。また、2015年に発足した北太平洋漁業委員会(NPFC)でのサンマやサバ資源の管理をめぐる議論では、これらの資源管理理論が重要な役割を果たす可能性が高い。

2017年度 JIFRS 大会シンポジウムでは、上記の国際漁業資源管理理論をめぐる動きを組織的にレビューするとともに、今後の展開についてのインサイトを得ることを目指す。

座長 : 森下 丈二 (東京海洋大学)

13:30-13:35 開催校あいさつ

13:35-13:40 会長挨拶
多田 稔 (近畿大学)

13:40-13:50 解題
森下 丈二 (東京海洋大学)

13:50-14:20 「モデル・ベースの資源管理方式とその評価法」
北門 利英 (東京海洋大学)

14:20-14:50 「マグロ類地域漁業管理機関 (RFMO) における MSE の進捗状況」
中塚 周哉 (水産研究・教育機構 国際水産資源研究所)

14:50-15:20 「IWC における改定管理方式 (RMP) の導入と発展：非科学者の視点」
岡添 巨一 (水産庁国際課)

15:20-15:30 休憩

15:30-16:00 「自主的漁業管理の知識構造：魚種・漁法による比較」
竹村 紫苑・牧野 光琢 (水産研究・教育機構 中央水産研究所)

16:00-16:30 「Status and Future Challenges of Pacific Saury and Chub Mackerel Resources Management at the NPFC」
Aleksandr Zavorokin (NPFC 事務局科学主任)
(英語の発表について、通訳は入りませんが、発表資料が配布されます。)

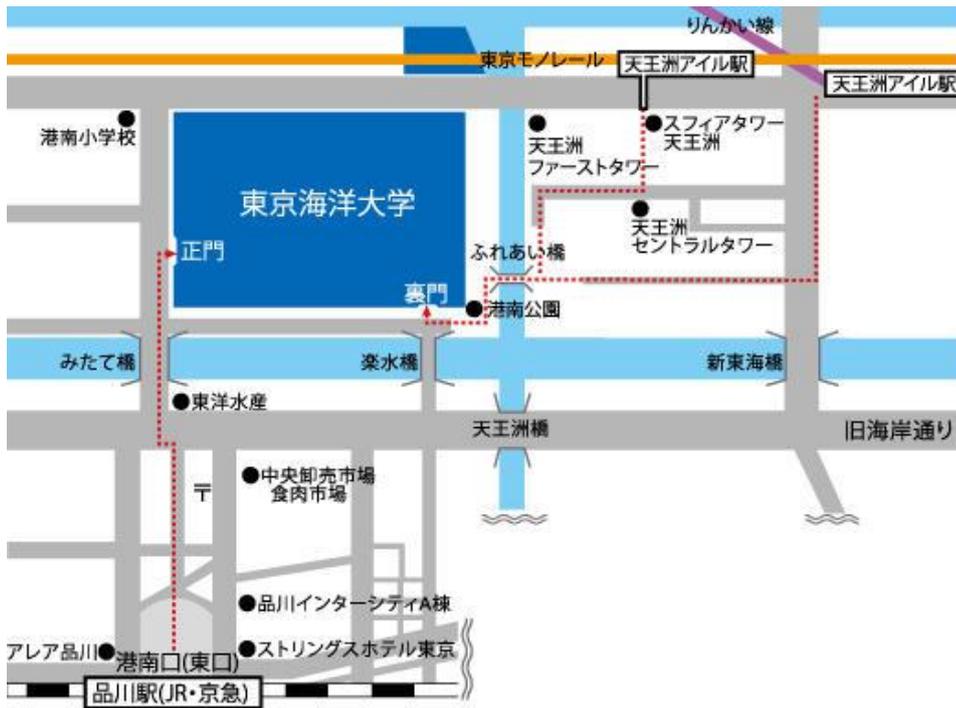
16:30-16:40 休憩

16:40-17:20 パネルディスカッション
「漁業資源管理のこれからの理論的方向性」

17:20-17:30 総括と閉会：座長

■会場アクセス

〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7 東京海洋大学品川キャンパス



キャンパスマップ：白鷹館は21番、8号館は17番、懇親会会場（大学会館）は26番

